

DP (ディプロマポリシー) アンケートにみる大学授業の省察

～『教職基礎論』の2年間比較から～

学校教育講座 (教育学) 白松 賢

1. 教職基礎論の DP 対応と特徴

『教職基礎論』の DP 対応では、特に下記の2点を中心的なターゲットに据えている。

DP1A: 教育に関する確かな知識と、得意とする分野の専門的知識を修得している。(知識・理解)

DP5A: 専門的職業人としての使命感や責任感と多世代にわたる対人関係力を身につけ、社会の一員として適切な行動ができる。(態度)

この授業の目的は、教職への真の一体感・使命感・意欲を形成する前提として真摯な自己吟味をするため、教職の意義と教員の役割、教員の身分・資格、職務内容、学校の現状と求められる教師像を理解し、教師としての自己成長の方途について考えさせることにある。教職(教員養成)の導入科目であり、大学入学後にはじめて教師としての自己の適性を問う科目となる。そのため、教職教養の全体的な領域(教育時事、教育法規、教育原理、教育史、教育心理、教育政策など)の基礎的な知識・理解の修得を第一義的に目標にしている。これらの基礎的な知識・理解を深化・拡充できることが、専門的職業陣としての使命感や責任感と表裏一体であることを授業では強調している。

2. 授業の工夫と具体的内容

授業では、教育時事(教育問題)から授

業内容をスタートさせ、学生の身近な事例(個性とは何か?学級崩壊と教師の力、いじめや少年問題など)から教育への関心を引き出す工夫をしている。また不登校の問題から、学校に通えるようになったことは極めて近代的な事象であるにも関わらず、先進国では経済的発展に伴って「不登校数」が増加し、「学校に行けること=幸せ」という概念が崩れていることを探究させた。この探究を通して、知識理解を必然的に身につけるように工夫し、中間テストにおける知識の定着率が高くなるようにした。

また授業の中では、双方向型の授業(教師が出題し、小グループでディスカッションを行い、代表者が回答をする方式、オープンエンドな問いかけによる自由回答方式)、体験型の授業(SGE、SSなどのワーク)、反転授業(少年犯罪を調べてきて、発表しながらディスカッション)、等を取り入れている。

3. 授業外学習について

授業外学習では、反転授業のための調べ学習や中間テストの定着のための学習が授業を通して設定した課題であった。学生調査の結果、平均学習時間が1.14時間であった。また自発的な学習では、平均0.52時間であり、両方を足した場合、平均的に2時間程度の授業外学習が、毎回の授業に対して行われていたことになる。ただし、自発的な学習に関しては、40%程度の学生が0時間であったことを考えると、教員志望意識やモチベーションの低い学生に足しては、

一定の課題を課すなど、今後の対策が必要である。また、授業に関連した自発読書に関しては、1冊も読んでいない学生が105名いることを考えると、良質の本を授業で定期的に紹介し、レポートを課す工夫が必要である。

4. DP 対応調査からの授業分析

Table1 に示した表が平成 26 年度と平成 27 年度の調査結果を比較したものである。対象としている DP1A と DPA について、「とてもそう思う」に着目した場合、DP1A が 88.4% (H26) から 97.8%(H27)へ、DP5A が 63.5% (H26) から 70.3%(H27) にいずれも向上している。DP5A については、「教職のやりがい」を強調することで「使命感と責任感」を理解させるようにしているが、ここには依然として課題がある。一方で授業としては対象としていないが、DP2A については「とてもそう思う」が 81.9%(H26)から 92.5%(H27)に向上してい

る。いじめや不登校などの学生の関心の高いテーマを選び、教職の使命感や責任感について考えさせる課題を提示していることに起因している。DP4A について「とてもそう思う」と回答する割合が今年度、38.3%から 65.7%に比較したのも、上記の自己教育課題に結びつけて考えさせるテーマ設定をしたことに関わっている。

昨年度の学生に比べ、今年度の学生は、全体の前で発表することにも積極であったことから、本講義で意図的に工夫を行った授業方法と学生のムードや資質が一致していたことも本授業の成果と深く関わっているといえる。

今後の課題としては、教師を志望する者とそうでない者の間には、「使命感や責任感」の感じ方に大きな違いがある。学生の自己実現目標をはっきりと自覚・表現させながら、ディスカッション等を行うことで、それぞれの立場の考え方を深めることができると考えられる。

Table1. 教職基礎論

		とても そう 思う	ある 程度 そう 思う	あ ま り そ う 思 わ な い	D P と 無 関 係	計
DP1教育に関する確かな知識と得意とする分野の専門的知識を修得している DP1A: 教育に関する知識の修得	H26	88.4%	11.6%	0.0%	0.0%	100.0%(129)
	H27	97.8%	2.2%	0.0%	0.0%	100.0%(134)
DP1B: 得意分野の専門的知識の修得	H26	59.5%	33.3%	6.3%	0.8%	100.0%(126)
	H27	54.5%	34.3%	7.5%	3.7%	100.0%(134)
DP2教育をめぐるさまざまな現代的課題について論じ、適切な対応を考えることができる。 DP2A: 教育をめぐる現代的諸課題の理解	H26	81.9%	18.1%	0.0%	0.0%	100.0%(127)
	H27	92.5%	6.7%	0.7%	0.0%	100.0%(134)
DP2B: それへの適切な対応策の在り方...	H26	68.8%	30.5%	0.8%	0.0%	100.0%(128)
	H27	74.6%	25.4%	0.0%	0.0%	100.0%(134)
DP3教育活動に取り組むため、高い技能と豊かな表現力を身につけている。 DP3A: 教育活動に必要な高い技能の修得	H26	49.6%	42.5%	5.5%	2.4%	100.0%(127)
	H27	55.2%	41.8%	2.2%	0.7%	100.0%(134)
DP3B: 教育活動に必要な豊かな表現力の修得	H26	39.5%	45.7%	10.9%	3.9%	100.0%(129)
	H27	38.8%	48.5%	8.2%	4.5%	100.0%(134)
DP4自己の学習課題を明確にし、理論と実践を結びつけた主体的な学習ができる。 DP4A: 自己の学習課題の明確化	H26	38.3%	55.5%	5.5%	0.8%	100.0%(128)
	H27	65.7%	31.3%	3.0%	0.0%	100.0%(134)
DP4B: 理論と実践を結びつけた主体的な学習への意欲	H26	37.5%	45.3%	14.1%	3.1%	100.0%(128)
	H27	37.3%	51.5%	9.0%	2.2%	100.0%(134)
DP5専門的職業人としての使命感や責任感と多世代にわたる対人関係力を身につけ、社会の一員として適切な行動ができる。 DP5A: 専門的職業人としての使命感や責任感の形成	H26	63.6%	31.8%	4.7%	0.0%	100.0%(129)
	H27	70.9%	26.9%	1.5%	0.7%	100.0%(134)
DP5B: 多世代にわたる対人関係力の育成	H26	30.2%	45.7%	14.7%	9.3%	100.0%(129)
	H27	39.6%	41.8%	11.9%	6.7%	100.0%(134)